

No.161 上野動物園の ジャイアントパンダが出産 平成24年以 [2017年06月12日 NEWS WEBより]



<http://www.asiaq.net>

～上級者向け ニュース記事OP～

上野動物園のジャイアントパンダが出産 平成24年以来

●自然交配は極めて困難

「カンカン」「ランラン」の時代から、およそ30年間にわたって、上野動物園と共同でパンダの繁殖について研究してきた、獣医師の筒井敏彦さんによりますと、パンダの自然交配は極めて難しいということです。



理由は生態について詳しくわかっていない点が多いうえ、2月ごろから5月ごろにかけての繁殖期に、妊娠の可能性が高まるのは2日程度と短いためだということです。

さらに個体の数が少なく、ペアの相性が大きく影響するため、メスが発情しても交尾に至らないケースも多いということです。

●出産に向けてさまざまな工夫

シンシンとリーリーの間には、5年前にも赤ちゃんが誕生しましたが、赤ちゃんは肺炎のため6日後に死にました。

それ以降も上野動物園では赤ちゃんの誕生と元気な成長を目指して、さまざまな取り組みを続けてきました。その1つが交尾に必要な筋力トレーニングです。リングなどの餌を上からつり下げ、餌を取ろうと後ろ足で立ち上がることで、足腰を鍛えます。



さらに、シンシンが出産後も落ち着いて赤ちゃんを育てられる環境作りも工夫しています。出産や子育てをする産室は縦4.8メートル、横1.8メートルの広さで、新たに鉄製の背もたれを3つ設置しました。



背もたれは半円形と三角形の2種類あり、好みに応じて使い分けができるほか、腰を下ろす床の部分は座り心地をよくするために丸みを持たせています。少しでもリラックスした状態で赤ちゃんに母乳を与えることで、赤ちゃんが元気に成長してほしいと動物園は期待しています。

No.161 上野動物園の ジャイアントパンダが出産 平成24年以 [2017年06月12日 NEWS WEBより]



<http://www.asiaq.net>

～上級者向け ニュース記事OP～

上野動物園のジャイアントパンダが出産 平成24年以来

●赤ちゃんは2歳前後で中国へ

シンシンとリーリーの2頭は、平成23年からジャイアントパンダの保護や繁殖に関して中国の保護協会と共同研究する目的で、東京都が借り受けています。協定で期間は10年と定められ、東京都は毎年95万ドルを中国側に支払うことになっています。

シンシンとリーリーの所有権は中国側にあり、今回、生まれた赤ちゃんについても同様に中国側にあることから、将来的に中国に返されることになっています。時期については協定で満24か月と定められていますが、都と中国側、双方の協議で決められるということです。

●国内の飼育状況

日本動物園水族館協会や各地の動物園によりますと、現在国内で飼育されているジャイアントパンダは、上野動物園の2頭と、和歌山県白浜町のアドベンチャーワールドの5頭、兵庫県の神戸市立王子動物園の1頭の合わせて8頭です。

このうちアドベンチャーワールドでは、平成15年に日本で初めて双子が誕生するなど、これまでに15頭のパンダが元気に成長し、このうち11頭が繁殖のために中国に渡っています。また、神戸市立王子動物園では平成20年に人工授精によって赤ちゃんが誕生しましたが、3日後に死んでいます。

